

【フォーレクイエム資料】

はじめに

アクセントの場所は気持ち長めに(息を多く使って)発音します。本来はetはえとうに近く発音したり、xの発音はそんなに濁らなかつたり、Sの発音は日本語のすのようにはっきり発音しなかつたりしますので、練習の時の先生の発音を聞いて細かく修正していただけたらと思います(^^)/。まずは早口言葉のように口に出してみ、ならし運転しましょう。この資料では、レクイエムの構成と典礼文にふれながら、フォーレのレクイエムに使用されている典礼文に発音記号をつけていきたいと思ひます。

レクイエム全般を見渡してみると、常にすべての典礼文に作曲されるわけではないことがわかります(たとえばモーツァルト、ヴェルディ、フォーレのレクイエムは共に昇階唱がないです)。下表は、いわゆる「三大レクイエム(モーツァルト、ヴェルディ、フォーレ(以下、モ、ヴ、フと略))」についてどの典礼文に作曲がなされているかをしめしたものです。

※通常三大レクイエムに数えられるヨハネス・ブラームスの「ドイツレクイエム」は、ドイツ語訳の聖書からブラームスが任意に選んだテキストを使用しており、下記に示すラテン語の典礼文とは全く違う内容ですので、今回の表にははいていません。

曲目

入祭唱(Introitus)	モ	ヴ	フ
キリエ(Kyrie)	モ	ヴ	フ
昇階唱(Graduale)	×	×	×
詠唱(Tractus)	×	×	×

続唱(Sequentia)

怒りの日(Dies iræ)	モ	ヴ	×
奇しきラッパの響き(Tuba mirum)	モ	ヴ	×
恐るべき御稜威の王(Rex tremendæ)	モ	ヴ	×
思い出したまえ(Recordare)	モ	ヴ	×
呪われたもの(Confutatis)	モ	ヴ	×
涙の日(Lacrimosa)	モ	ヴ	×

※ヴェル・レクでは "Tuba mirum"、"Liber scriptus"、"Quid sum miser" の3曲に分けて収録

※ヴェル・レクでは "Recordare"、"Ingemisco" の2曲に分けて収録

※フォー・レクでは "Pie Jesu" として一部のみ収録

奉献唱(Offertrium)

主イエス・キリスト(Domine Jesu)	モ	ヴ	×
賛美の生け贄と祈り(Hostias)	モ	ヴ	フ

※フォー・レクでは "Offertorium" として前半部のみ収録

サンクトゥス(Sanctus)

聖なるかな(Sanctus)	モ	ヴ	フ
祝福されますように(Benedictus)	モ	ヴ	×
神羊誦(Agnus Dei)	モ	ヴ	フ
聖体拝領唱(Communio)	モ	ヴ	フ
赦祷文(Responsorium)(Libera me)	×	ヴ	フ
楽園へ(In Paradisum)	×	×	フ

※フォー・レクでは "Agnus Dei" の一部として収録

カトリック教会における葬儀ミサの式文は第2バチカン公会議以降の典礼の見直しと一連の改革によって内容が大幅に変化しました。今回は典礼改革以前のもので作成しました。(フォー・レクではフォーレによって一部を抜粋・再構成されている文章もある)

フォーレ・レクイエムの各曲解説

○入祭文とキリエ

入祭文(イントロイトゥス)では、伴奏が二音を強奏した後で弱まり、二短調の主和音が合唱される。伴奏と合奏が交互に動き、和声も移り変わる。続いてキリエでは、短調と長調のはざままで揺れる伴奏に乗り、主への祈りが歌われる。

○奉献頌

奉献頌(オッフェルトリウム)は、冒頭のうごめく低音が不気味である。識者は、この音型は後の前奏曲第9番と似ていると指摘する。

○サンクトゥス

変ホ長調のさざなみで、旋法的な、平穏な合唱が続く。独奏ヴァイオリンの絡みが泣かせる。その後、管が鳴り響き、厳かな雰囲気が高まる。

○ああ、イエズスよ(ピエ・イエズ)

ソプラノ独唱。簡素な伴奏に絶妙な歌がはまっている。フォーレによるこの歌と伴奏の推敲が、残された音楽帳によりわかっている。

○アニェス・デイ

シンコーションを交えた弦の、起伏のあるへ長調の旋律が、マッサージを受けているかのように心地よい。これに素朴な旋律の合唱が加わり、平安な雰囲気浮かびあがる。オーケストラが八長調で休止したあと、ソプラノが「光(Lux)」を唱い、その後合唱の他のパートとオーケストラが変イ長調で包み込む。この瞬間の厳かな響きは、フォーレならではの技法である。再度、入祭文の冒頭が回顧され、最後に本楽章の冒頭の旋律が二長調で再現される。

○われを許し給え

レクイエム中、最も起伏があり、劇的な場面である。バリトンソロで徐々に高揚し、ホルンとトロンボーンが加わり、合唱の Dies illa, dies iræ で最高潮を迎える。

○楽園にて

この曲では管は登場しない。オルガンの分散和音に続いて、ソプラノの斉唱が始まり、絶妙な和声が行進する。他の声部やハーブも加わり、清澄な気分うちに全曲を閉じる。

●入祭唱 (Introitus) (合唱) ----- No.1

その日のミサの内容を歌うもの。固有文。死者のためのミサでは歌い出しが "Requiem æternam"(永遠の安息を) であるため、ミサ曲全体が「レクイエム」と呼ばれる。

Requiem æternam dona eis, Domine,
rék-wi-em etér-nam dó:-na é-i:s dó-mi-ne
れクイエム エテるナム ドーナ エーイス ドミネ

主よ、永遠の安息を彼らに与え、

et lux perpetua luceat eis.
et lu:ks per-pé-tu-a lú:-tʃe-at é-i:s
エト ルークス ぺるペートウア ルーチェアト エーイス

絶えざる光でお照らしください。

Te decet hymnus, Deus, in Sion,
te: dé-tʃet ím-nus dé-us in sí-on
テ デチェト イムヌス デウス イン シイオン

神よ、シオンではあなたに賛歌が捧げられ、

et tibi reddetur votum in Jerusalem.
et tí-bi red-dé:-tur vó:-tum in je-rú:-za-lem
エト ティービ れッデートウル ヴォートウム イン いえるーサレム

エルサレムでは誓いが果たされます。

Exaudi orationem meam,
eks-áu-dí o:-ra:-tsi-ó:-nem mé-am
エクスアウディ オラツィオーネム メーアム

私の祈りをお聞き届けください

ad te omnis caro veniet.
ad te: óm-nis ká:-ro: vé-ni-et
アド テ オムニス カーロ ヴェニエト

すべての肉体はあなたの元に戻ることでしよう。(詩編 65:2-3)

Requiem æternam dona eis, Domine,
rék-wi-em etér-nam dó:-na é-i:s dó-mi-ne
れクイエム エテるナム ドーナ エーイス ドミネ

主よ、永遠の安息を彼らに与え、

et lux perpetua luceat eis.
et lu:ks per-pé-tu-a lú:-tʃe-at é-i:s
エト ルークス ぺるペートウア ルーチェアト エーイス

絶えざる光でお照らしください。

○キリエ (Kyrie) (合唱)

「救憐唱」「憐れみの賛歌」とも。憐れみ深い神への賛歌、あるいは罪人が憐れみを乞う歌。唯一、ギリシア語による。通常文。東方教会で用いる「ヨハネス・クリュソストモスの聖体礼儀」のうち冒頭などで用いられる「大連禱」を簡素化したもの。(キリエ参照。)

Kyrie eleison. Christe eleison. Kyrie eleison. 主よ、あわれみたまえ。
kí-ri-e e-léi-zon kús-te e-léi-zon kí-ri-e e-léi-zon キリストよ、あわれみたまえ。
キリエ エレイソン クリステ エレイソン キリエ エレイソン 主よ、あわれみたまえ。

●昇階唱 (Graduale) (ヴェルレク・フォーレクにはなし)

固有文。古い時代のレクイエム (例えば、オケゲムのレクイエム) を除くと Graduale と次の Tractus は省略されるのが通常だが、著名なものではケルビーニとドヴォルザークに見受けられる。

Requiem æternam dona eis Domine
et lux perpetua luceat eis.
In memoria æterna erit justus:
ab auditione mala non timebit.

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしください。
正しい人は永遠に記憶され、
悪い知らせにも恐れはしないでしょう。(詩編 112:6-7)

●詠唱 (Tractus) (ヴェルレク・フォーレクにはなし)

固有文。例えば、オケゲムのレクイエムに見られる。

Absolve Domine, animas omnium fidelium defunctorum
ab omni vinculo delictorum.
Et gratia tua illis succerente,
mereantur evadere iudicium ultionis.
Et lucis aeternae beatitudine perfrui.

主よ、全ての死せる信者の靈魂を
ことごとく罪のほだしより解いてください。
彼らが主の聖寵の助けによって
刑罰の宣告をまぬがれ、
永遠の光明の幸福を楽しむにいらんことを。

●続唱 (Sequentia) (フォー・レクではピエ・イエズのみ採用)

固有文。最後の審判を歌ったもの。チェラーノのトマス作。トリエント公会議で公認された4つの続唱のうちのひとつ。第2バチカン公会議における典礼の刷新で「死後の恐怖を不必要に強調することはキリスト教本来の思想から外れている」と、「葬儀は、キリスト信者の死の復活的性格をより明らかに表現」(『典礼憲章』第81条)するという理由でこの続唱は除かれ、三部に分けられ、教会の祈り(聖務日課)の賛歌となっている。またその歌詞は三行を一単位として脚韻を踏んでおり(aaa, bbb)、典礼文の傑作と言われる。なお「怒りの日」はDies Iræ ... Amen。まででひとつの典礼文であるが作曲の便宜上以下のように細分されることがある。フォーレのものはこれが省略される。

この続唱のテキストには、最終戦争、火による浄化、最終審判など、キリスト教というよりも、むしろゾロアスター教、マゾダ教などイラン起源の二元論宗教の影響が色濃く認められる。

●怒りの日 (Dies iræ)

**Dies iræ, dies illa
solvat sæclum in favilla:
teste David cum Sibylla
Quantus tremor est futurus,
quando iudex est venturus,
cuncta stricte discussurus.**

怒りの日、その日は
ダビデとシビラの預言のとおり
世界が灰燼に帰す日です。
審判者があらわれて
すべてが厳しく裁かれるとき
その恐ろしさはどれほどでしょうか。

●奇しきラッパの響き (Tuba mirum)

**Tuba mirum spargens sonum
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.
Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura, iudicanti responsura
Liber scriptus proferetur, in quo totum continetur,
unde mundus iudicetur.
Iudex ergo cum sedebit, quidquid latet, apparebit:
Nil inultum remanebit.
Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sit securus.**

奇しきラッパの響きが 各地の墓から
すべての者を玉座の前に集めるでしょう。
つくられた者が裁く者に弁明するためによみがえる時
死も自然も驚くでしょう。
書物がさしだされるでしょう。
すべてが書きしるされたこの世裁く書物が。
そして審判者がその座に着く時
隠されていたことがすべて明らかにされ、
罪を逃れるものはありません。
その時哀れな私は何を言えば良いのでしょうか？
誰に弁護を頼めば良いのでしょうか？
正しい人ですら不安に思うその時に。

●恐るべき御稜威の王 (Rex tremendæ)

**Rex tremendæ majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.**

救われるべき者を無償で救われる
恐るべき御稜威の王よ、
慈悲の泉よ、私をお救いください。

●思い出したまえ (Recordare)

**Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuæ viæ:
ne me perdas illa die.
Quærens me, sedisti lassus
Redemisti crucem passus
Tantus labor non sit cassus.
Juste iudex ultionis,
donum fac remissionis,
ante diem rationis.
Ingemisco, tamquam reus:
culpa rubet vultus meus:
supplicanti parce Deus.
Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti,
Preces meæ non sunt dignæ:
Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.
Inter oves locum præsta,
et ab hædis me sequestra,
statuens in parte dextra.**

思い出してください、慈悲深きイエスよ
あなたの来臨は私たちのためであるということ
その日に私を滅ぼさないでください。
私を探してあなたは疲れ、腰をおろされた
十字架を堪え忍び、救いをもたらされた
これほどの苦しみが無駄になりませんように。
裁きをもたらす正しき審判者よ
裁きの日の前に
ゆるしの恩寵をお与えください。
私は罪人のように嘆き
罪を恥じて顔を赤らめます
神よ、許しを請う者に慈悲をお与えください。
(マгдаラの) マリアを許し
盗賊の願いをもお聞き入れになった主は (ルカ 23:39-43)
私にも希望を与えられました。
私の祈りは価値のないものですが、
優しく寛大にしてください。
私が永遠の炎に焼かれないように。
私に羊の群れの中に席を与え
牡山羊から遠ざけ
あなたの右側においてください。(マタイ 25:31-34)

●呪われたもの (Confutatis)

**Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.
Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis:
gere curam mei finis.**

呪われた者たちが退けられ、
激しい炎に飲みこまれる時、
祝福された者たちとともに私をお呼びください。
私は灰のように砕かれた心で、
ひざまずき、ひれ伏して懇願します。
終末の時をおはからいください。

○涙の日 (Lacrimosa)

**Lacrimosa dies illa,
qua resurget ex favilla
judicandus homo reus:
Huic ergo parce Deus.**

pie Jesu Domine,
pí-e jé-zu dó-mi-ne
ピエ イェズ ドーミネ

dona eis requiem, amen.
dó-na é-is rék-wi-em á-men
ドーナ エーイス れクイエム アーメン

○奉献唱 (Offertorium)
司祭がパンとぶどう酒を捧げる時に歌われる。固有文。
主イエス・キリスト (Domine Jesu)

O, Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
O, dó-mi-ne yé:-zu: kρίς-te ré:ks gló:-riæ
ドミネ イェズ クリステ れークス グローリエ

libera animas omnium fidelium defunctorum
li:-be-ra: á-ni-ma:s om-ni-um fi-de-li-um de:-funk-tó:-rum
リベラ アニマス オムニウム フィデリウム デフンクトーラム

de pœnis inferni,
de pé-nis in-fér-ni
デ ペニス インフェルニ

et de profundo lacu;
et de pro-fún-do: lá-ku:
エト デプルス フンド ラク

libera eas de ore leonis,
li-be-ra é-as de ó-re le-ó:-nis
リベラ エアス デ オーレ レオーニス

ne absorbeat eas Tartarus,
ne: ab-sór-be-at é-as tár-ta-rus
ネ アブソルベアト エーアス タルタルス

ne cadant in obscurum.
ne: ká-dant in obs-kú:-rum
ネ カダント イン オブスクーラム

Sed signifer Sanctus Michael
sed si-ni-fer sánk-tus mikæel
セド シニフェル サンクトゥス ミカエル

repræsentet eas in lucem sanctam,
repræsen-tet é-as in lú-tsem sánk-tam
れプレセンテト エーアス イン ルーチェム サンクタム

quam olim Abrahæ promisisti
kwam ó-lim á-braæ pro-mi-zís-ti
クワム オーリム アブラエ プロミズィスティ

et semini ejus.
et se-mi-ni é-jus
エト セミニ エーユス

涙の日、その日は
罪ある者が裁きを受けるために
灰の中からよみがえる日です。
神よ、この者をお許してください。

慈悲深き主、イエスよ

彼らに安息をお与えください。アーメン。

主イエス・キリストよ、栄光の王よ、

全ての死せる信者の魂を

地獄の罰と

深淵からお救いください

彼らの魂を獅子の口からお救いください

彼らが冥府に飲み込まれぬように

彼らが暗黒に落ちぬように。

旗手たる聖ミカエルが

彼らの魂を聖なる光へと導きますように。

かつてあなたがアブラハムとその子孫に

約束したように。

○賛美の生け贄と祈り (Hostias)

Hostias et preces tibi, Domine.

ós-ti-a:s et pré-tʃe:s tí-bi do-mi-ne
オスティアス エト プレーチェス ティビ ドーミネ

tibi Domine, laudis offerimus.

tí-bi dó-mi-ne láu-dis of-fé:-ri-mus
ティビ ドーミネ ラウディス オッフエリムス

Tu suscipe pro animabus illis,

tu: sú-ʃi-pe pro: a-ni-má:-bus íl-lis
トゥー スシペ プロー アニマース イッリス

quarum hodie memoriam facimus.

kwá:-rum ó-di-e: me-mó-ri-am fa-tʃi-mus
クワールム オーディエ メモリアム ファーチムス

Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam,

fak é-a:s dó-mi-ne de: mór-te tra:n-si:-re ad ví:-tam
ファク エアス ドーミネ モルテ トランシーレ アド ヴィータム

quam olim Abrahæ promisisti

kwam ó:-lim á-bra-æ pro:-mi:-zís-ti:
クワム オーリム アブラエ プローミズィスティ

et semini ejus.

et sé:-mi-ni: é:-yus
エト セミニ エーユス

●サンクトゥス (Sanctus) (合唱) ——— No.4

「感謝の賛歌」「三聖唱」とも。神を賛美し感謝する聖歌。通常文。
聖なるかな (Sanctus)

Sanctus, Sanctus, Sanctus

sánk-tus sánk-tus sánk-tus
サンクトゥス サンクトゥス サンクトゥス

Dominus, Deus Sabaoth

dó-mi-nus dé-us sá-ba-o:t
ドミヌス デーウス サバオト

Pleni sunt cæli et terra gloria tua

plé-ni sunt tʃe-li: et tér-ra gló:-ri-a tú-a
プレーニ スント チェリ エト テッラ グローリア トゥーア

Hosanna, in excelsis.

o-zán-na in ek-ʃél-sis
オサンナ イン エクシエルシス

※excelsis: いろんな読み方がありますが、イタリア古典式に従って発音します。

× エクチェルシス

●祝福されますように (Benedictus)

Benedictus qui venit in nomine Domini

Hosanna, in excelsis.

賛美の生け贄と祈りを

主よ、あなたに私たちは捧げます。

彼らの魂のためにお受け取りください。

今日、私たちが追悼するその魂のために。

主よ、彼らの魂を死から生へとお移してください。

かつてあなたがアブラハムとその子孫に

約束したように。

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、

万軍の神よ、主よ

天と地はあなたの栄光に満ちています。(イザヤ 6:3)

いと高きところにホザンナ
(ホザンナは「救い給え」の意)。

主の御名において来る者は祝福されますように
(詩編 118:26)

いと高きところにホザンナ

●神羊誦 (Agnus Dei) (合唱あり) ————— No.5

「平和の賛歌」「神羔唱」とも。聖体変化したパンを切り分ける際に歌い、神の小羊であるキリストに世の平安を祈る聖歌。通常文。ただし死者のためのミサでは歌詞の一部が変更される（「我らに平和をお与えください」"dona nobis pacem"→「彼らに永久の安息をお与えください」"dona eis requiem sempiternam"）。このため、「平和の賛歌」の意味が薄れていた。第二バチカン公会議による典礼の刷新後は、いずれも、通常の結びのことば、「われらをあわれみたまえ」「われらに平安をあたえたまえ」と改訂されている。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

á-ɲus dé-i kwi tól-lis pék-ka-ta mún-di

アニユス デーイ クウィ トツリス ペッカータ ムンディ

この世の罪を取り除く神の小羊よ（ヨハネ 1:29,36）

dona eis requiem.

dó:-na é-i:s rék-wi-em

ドーナ エーイス レクイエム

彼らに安息をお与えください

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

á-ɲus dé-i kwi: tól-lis pek-ká:-ta mún-di:

アニユス デーイ クウィ トツリス ペッカータ ムンディ

この世の罪を取り除く神の小羊よ

dona eis requiem.

dó-na é-is rék-wi-em

ドーナ エーイス レクイエム

彼らに安息をお与えください

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

á-ɲus dé-i kwi tól-lis pék-ka-ta mún-di

アニユス デーイ クウィ トツリス ペッカータ ムンディ

この世の罪を取り除く神の小羊よ

dona eis requiem sempiternam.

dó-na é-i:s rék-wi-em sem-pi-tér-nam

ドーナ エーイス レクイエム センピテるナム

彼らに永久の安息をお与えください

○聖体拝領唱 (Communio)

聖体となったパンとぶどう酒を拝領する際に歌われる。死者が永遠の光に照らされることを神に祈る聖歌。固有文。死者ミサの聖体拝領唱は冒頭を取り Lux æterna と呼ぶ。

Lux æterna luceat eis, Domine:

lu:ks e-tér-na lú:-tʃe-at é-i:s dó-mi-ne

ルクス エテるナ ルーチェアト エーイス ドーミネ

主よ、彼らを永遠の光でお照らしてください。

Cum Sanctis tuis in æternum,

kum sánk-tis tú-i:s in etér-num

クム サンクティス トゥーイス エテるナム

聖者たちとともに永遠に

quia pius es.

kwí-a pí-us es

クウィア ピウス エス

あなたは慈悲深くあられるのですから。

Requiem æternam dona eis Domine:

rék-wi-em ætér-nam dó:-na é-i:s dó:-mi-ne

レクイエム エテるナム ドーナ エーイス ドーミネ

主よ、永遠の安息を彼らに与え、

et lux perpetua luceat eis.

et lu:ks per-pé-tu-a lú:-tʃe-at é-is

エト ルクス ぺるペートゥア ルーチェアト エーイス

絶えざる光でお照らしてください。

Cum Sanctis tuis in æternum,

kum sánk-tis tú-is in ætér-num

クム サンクティス トゥーイス イン エテるナム

聖者たちとともに永遠に

quia pius es.

kwí-a pí-us es

クウィア ピウス エス

あなたは慈悲深くあられるのですから。

○赦祷文 (Responsorium)

ミサの終了後の赦祷式 (Absolutio ad Tumbam) で歌われる。ミサには含まれないが、葬儀に関連するため、曲がつけられることがある (フォーレ、ヴェルディ等)。通常のみサで使われる嘆願 (Libera nos) と区別するため Libera me と呼ぶことが多い。

Libera me, Domine, de morte æterna,
lí:-be-ra: me dó-mi-ne de: mór-te e-tér-na
リべら メ ドーミネ デ モるテ エテるナ

主よ、永遠の死から私をお救いください

in die illa tremenda.
in dí-e: íl-la tre-mén-da
イン ディーエ イッラ トれメンダ

恐るべきその日に。

Quando cœli movendi sunt et terra,
kwán-do tʃé-li: mo-vén-di: sunt et tér-ra:
クワンド チェリ モヴェンディ スント エト テッラ

天と地が揺れ動き、

Dum veneris judicare sæculum per ignem.
dum vé-ne:-ris yú-di-ká-re sé-ku-lum per í-nem
ドゥム ヴェネリス ユディカーレ セーкулム ペル イーニエム
(トれメンス以下ソリスト部分)

主が炎を持ってこの世を裁く日、

Tremens factus sum ego et timeo,
tré-me:ns fák-tus sum é-go: et ti-me-o:
トれメンス ファクトゥス スム エゴ エト テイメオ

来るべき裁きと怒りの大きさを思って

dum discussio venerit atque ventura ira.
dum dis-kús-si-o: vé-ne-rit átk-we ven-tú:ra í:-ra
ドゥム ディスクッスイオ ヴェネリト アトクウェ ヴェントウーラ イーラ

私は恐れおののく。

Quando cœli movendi sunt et terra.
kwán-do tʃé-li: mo-vén-di: sunt et tér-ra:
クワンド チェリ モヴェンディ スント エト テッラ

天と地が揺れ動く。

Dies iræ, dies illa
dí-e:s i:-ræ dí-e:s íl-la
ディーエス イーレ ディーエス イッラ

その日は怒りの日、

calamitatis et miseræ,
ka-la-mi-tá:-tis et mi-zé-rie
カラミターティス エト ミゼリエ

災いと不幸の日

dies magna et amara valde.
dí-es má:-ɲa et a-má:-ra vál-de:
ディーエス マーニャ エト アマラ ヴアルデ

大いなる嘆きの日。

Requiem æternam dona eis, Domine,
rék-wi-em ætér-nam dó:-na é-i:s dó-mi-ne
れクイエム エテるナム ドーナ エーイス ドーミネ

主よ、永遠の安息を彼らに与え、

et lux perpetua luceat eis.
et lu:ks per-pé-tu-a lú:-tʃe-at é-i:s
エト ルクス ぺるペートゥア ルーチェアト エーイス

絶えざる光でお照らしください。

○楽園へ (In Paradisum)

出棺、埋葬時に歌われる。ミサには含まれないが、葬儀に関連するため、曲がつけられることがある。
(この歌での「あなた」は死者を指す)

この楽章は、最後の句「安らぎを保たれんことを」以外の動詞はすべて現在分詞の形である。これは“deducant”などの語句の末尾“...ant”（英語の現在分詞“...ing”と同じように形容詞的になり、進行を表す）でわかることができる。ここでは、目の前に繰り上げられる光景として想像される。

天使があなたを楽園へと導きますように。

In Paradisum deducant te Angeli;

in pa-ra-dí-zum de:-dú-kant án-dze-li:

イン パラ**ディ**スム デ**ドゥ**ーカント **ア**ンジェリ

楽園についたあなたを、殉教者たちが出迎え、

in tuo adventu suscipiant te martyres

in tú-o: ad-vén-tu: su-**f**i-pí-ant te: már-ti-re:s

イン **トゥ**ーオ アド**ヴェ**ントゥ **スシ**ピアント テ **マル**ティレス

聖なる都エルサレムへと導きますように。

et perducant te in civitatem sanctam Jerusalem.

et per-dú:-kant te: in tʃi-vi-tá:-tem sánk-tam ye-rú:-za-lem

エト ペル**ドゥ**ーカント テ イン チヴィ**ター**テム サンクタム イエル**ー**サレム

天使たちの合唱があなたを出迎え、

Chorus Angelorum te suscipiat,

kó-rus an-dze-ló:-rum te: su-**f**i-pí-ant

コルス アンジェ**ロ**ールム テ **スシ**ピアント

かつては貧しかったラザロとともに、(ルカ 16:19-22)

et cum Lazaro quondam paupere,

et kum lá-za-ro kwón-dam pau-pé:-re

エト クム **ラ**ザロ ク**ワン**ダム パウ**ペ**ーレ

永遠の安息を得られますように。

æternam habeas requiem.

e-tér-nam á-be-a:s rék-wi-em

エ**テル**ナム **ア**ベアス **レ**クイエム

制約事項と疑問点

◎ “exchelsis” を “sce” (しえ) のグループに入れることについて

Martin Lrebs 氏は否定的、従って、日本の音楽界での習慣的発音 (ek-fél-sis) には疑問あり。習慣に従って (ek-fél-sis) のままとしていますが、ヴァチカンのミサでは (eks-tʃrl-sis) と読んでいる事実があります。しかしながら、多数の CD に聴く欧米の演奏でも (ek-fél-sis)、(eks-tʃrl-sis)、ともにありますので、両者ともに使われていると見るのが妥当ではないかと思われます。

これは演奏のスタイル、効果等を考えて指揮者の指導に従ってください。

◎ s の発音

2 個の母音に挟まれた有声の子音の前の s を柔らかな s と呼び、z と濁ります。(例：rose (バラ)、gaze (凝視する) の z の発音。) ※ただし、“ereison” は、イタリア (教会) 式では、キリエに限っては濁りません。

これに対して、語頭で母音を伴う s (例：Sanctus, salvum) や、無声の子音の前の s (例：

stricte, altissimus, Christe) を強い s と呼び、濁りません。

野木エニス混声合唱団発音資料

※98/05/14 松本大四作成 JCAC 資料を元に作成された
10/10/23TIVE 発音資料を参考に 12/06/10 一部抜粋、
改稿しました。※参考文献：ミサ曲ハンドブック、WIKIPEDIA 他